

<春季植物観察会報告>：堀金村の植物観察（第168・169回例会）

橋渡 勝也

日時：平成15年6月28日（土）・29日（日）

場所：堀金村

「ほりでーゆー四季の郷」～烏川溪谷方面

参加者：林一六会長、中山、松田、堤、小口、小林、大塚、川上、田中、篠原、戸谷、安斎、早坂、学生2名（浦田、福原）、佐藤、橋渡計17名（担当幹事：池上・橋渡）

○第1日目は13：00に堀金村「ほりでーゆー四季の郷」に集合。最近整備された県営烏川溪谷緑地公園や建設途中の国営アルプスあづみの公園周辺を散策。夜は総会、植物を語る会が開かれた。第2日目の植物観察会の案内役を橋渡が行う。

○四季の郷～風穴まで車道周辺
（標高750m～800m）

ナライシダ、ミヤマヤシャブシ、オシダ、ヤマアジサイ、ヒメジョオン、アカソ、アブラチャン、ダンコウバイ、ヤマグワ、ヤマイヌワラビ、イヌガンソク、ゼンマイ、フサザクラ、ニワトコ、ゲンノショウコ、イワシロイノデ、サカゲイノデ、ミツモトソウ、イヌゴマ、ミヤマベニシダ、ツユクサ、ミノボロスゲ、クサノオウ、シナノザサ、ムラサキシキブ、ヒトツバカエデ、アシボソ、クマイチゴ、クリ、エゴノキ、アカネ、フキ、サルナシ、ミツバアケビ、アケビ、コボタンズル、ノリウツギ、カスミザクラ、ミズメ、オニツルウメモドキ、ヤブニンジン、イヌトウバナ、ミヤマイトチシダなどを観察。大礫が堆積する斜面に造られた農作物や漬物貯蔵用の風穴（外部）を見る。



小水沢中支流終点にて（11時30分）

○小水沢（地元では「こみつさ」と呼ぶ上流へ向かう林道周辺（標高1160m）

シロモジの観察：最近、橋渡が発見したもので、県内では最北の分布地点と考えられる。高さ3m数本の株立ち。シロモジはここ1か所だが、周辺には同じクスノキ科のダンコウバイやアブラチャンが生育。葉の切れ込み具合などシロモジとの中間的な形を持つ株も見つかる。

○小水沢周辺の谷筋、林縁・路傍

（標高900m）

トリアシショウマ、ヤマブキショウマ、フクオウソウ、タガネソウ、ヒトツバカエデ、オオバクロモジ、ノリウツギ、ツタウルシ、ミヤマクロモジ、タンナサワフタギ、ミミナグサ、ヤマイヌワラビ、アワブキ、ミツバツチグリ、キブシ、イケマ、シナノキ、ボタンズル、ミヤマハハソ、ウリハダカエデ、ミツバアケビ、オトギリソウ、ヤマアジサイ、ヌカボ、ユウガギク、オニグルミ、ネジキ、エイザンスミレ、エゴノキ、モトゲイタヤ、イヌ

ガンソク、ケヤキ、ホドイモ、ヤマヨモギ、アサノハカエデ、ツヤナシイノデ、モミジイチゴ、クマシデ、オトコエシ、オオイタヤメイゲツ、ツルニンジン、シラネセンキュウ、ツボスミレ、シシウド、ケバイカウツギ、クマノミズキ、ニシキウツギ、県内では稀にしか見られないホソバイラクサ（県版レッドデータブックで準絶滅危惧）を発見、クサイ、カキドオシ、カニツリグサ、ミノボロスゲ、クルマバナ、カゼクサ、クサヨシ、サワラ、ミズタマソウ、クサギ、キツリフネ、ミズヒキ、ナンバンハコベ、ヘビノネゴザ、ミヤマワラビ、エゾタチカタバミ、コチャルメルソウ、ニッコウネコノメ、マルバネコノメ、キバナノヤマオダマキ、クリンユキフデ、ウスゲタマブキ、ミツモトソウ、オニシモツケ、ナツトウダイ、ヒロハコンロンソウ、ヤグルマソウなどを観察し、11:53解散。

（文責：橋渡）